

令和3年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

広い視野を持ち、心身共に健康で、創造性と実践力に富む、心豊かな児童の育成

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

「時代を拓く日本人を育てる」

- ・よく学び考える子・・・「学力の基礎・基本」の確実な定着
- ・思いやりのある子・・・「他者を思いやる心」の育成
- ・たくましい子・・・活動の源となる「体力」の向上

挑戦したりやり抜いたりする「たくましさ」の育成

2 学校経営の理念

創立148年を迎え、歴史や伝統、豊かな自然や文化によって培われてきた本校で学ぶ全ての児童に対し、全教職員が連携・協働し、充実した教育環境のもと、本校の教育目標の達成を目指す。そのためには、全ての教職員が教育への情熱と使命感をもち、児童・保護者・地域住民と協和し、創意と工夫・活力に満ちた教育活動を展開する。また、地域とともにある学校づくりを目指し、家庭や地域や企業とも相互理解を深め、三育（共育・協育・響育）の精神をもって地域の教育資源を活用しながら、知・徳・体のバランスのとれた力、挑戦したりやり抜いたりするたくましさ、自らの夢の実現や社会貢献を指向する志をもった児童の育成に取り組む。

3 学校経営の方針

- 楽しく居がいのある学校づくり・・・善い行いや努力を見取り励ます
- 生きる力を育む教育実践・・・体験活動や読書活動の充実
- 社会性の育成・・・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（宇都宮モデル）
- 地域とともにある学校づくり・・・郷土への愛情を育む学習の推進
- 資質向上の自己研鑽と教育環境の整備・・・GIGAスクール構想の推進
- 働き方を意識した校内業務の適正化・・・明確化，効率化，簡略化

「古里地域学校園教育ビジョン」 夢や目標をもち、その実現に向けて、自ら鍛え、思いやる心を磨きながら、生きる力を身に付ける児童生徒の育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び学校教育法施行規則並びに小学校学習指導要領，栃木県教育委員会施策，宇都宮市教育委員会の基本方針や努力点の示すところに従い，本校教育課程を編成する。
- (2) 令和3年度の本校の教育目標の実現を目指して，各教科で育む資質・能力や目標・内容を明確化するとともに，地域や学校の実態及び児童の心身の発達段階と特性を十分に考慮し，特色ある教育課程を編成する。

＜読解力や問題発見・解決能力などの学習の基盤となる資質・能力の育成＞

- ・言語能力の育成を図るため，必要な言語環境を整えるとともに，児童の言語活動を充実すること。また，読書活動を充実させ語彙を増やす。
- ・コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

- ・児童も教師もいきいきと活動する学校，児童も教師も成長する学校，地域とともにある学校の実現による「信頼と魅力ある学校づくり」

○感染症対策を講じ、教育活動を工夫しながら知・徳・体のバランスのとれた力の育成

- ・教職員が児童と向き合う時間を十分かつ適切に確保するため、積極的に業務改善に取り組む組織づくりの推進（日課表の改善、資料のペーパーレス化、勤務時間内の会議等）

（２）学習指導

- ・一人一人が主体的に取り組み、いきいきと学び合う児童の育成

（３）児童生徒指導

- ・一人一人が自信をもち、共に支え合いながら、生き生きと活動する児童の育成

（４）健康（体力・保健・食育・安全）

- ・生涯を通して運動に親しもうとする態度を育成し、体力や健康に関する知識や技能を身に付け、自他の生命を尊重しながら、安全な生活を営む児童の育成

6 学習指導に関する取組

＜重点目標＞

一人一人が主体的に取り組み、いきいきと学び合う児童の育成

～基礎・基本の定着を図り、表現力を高める言語活動の工夫～

（１）確かな学力の定着

- ・協働思考の場としての学び合い活動の充実・言語活動の質的向上（通年）
- ・習熟度別指導・ＴＴ（国語・算数）の充実（通年）
- ・読書指導やＩＣＴを活用した授業の充実（通年）
- ・個に応じた学習指導・支援の充実、個人差への配慮（通年）
- ・ステップアップシート等を活用した、既習事項の反復学習（通年）
- ・語彙力・表現力向上のための基礎・基本を身に付ける「プロジェクトＳ」の充実（週３回）

（２）学び方の習得

- ・基本的な学習態度の徹底（姿勢・返事等）（通年）
- ・家庭学習の充実のための具体的指導（本校独自の「家庭学習の手引き」及び地域学校園「家庭学習のすすめ」活用）（通年）
- ・単元計画と「めあて」「まとめ」「ふり返り」を明確にした授業の実践（通年）

（３）望ましい学習環境づくりと活用

- ・地域の教育的素材・人材を効果的に生かした教育活動の充実（通年）
- ・図書資料やパソコン室利用の充実と活用（通年）
- ・ＧＩＧＡスクール構想を踏まえ、１人１台端末を活用（通年）
- ・教師と児童の望ましい信頼関係の構築（通年）
- ・教育相談の充実（通年）
- ・互いのよさを生かし合う学習形態（ペア・グループ等）による課題への取組（通年）

（４）指導と評価の一体化

- ・効果的な学び合い活動や表現力を高めるための授業研究（通年）
- ・教師のコーディネート力の向上のための日常的な授業研究会（通年）
- ・新しい評価のための授業の在り方の研究とルーブリック評価の作成（年２回）
- ・学力向上のための各種学習状況調査、学習・生活アンケートの分析・結果公表と引き継ぎ（１０月・２月）

7 児童生徒指導に関する取組

＜重点目標＞

一人一人が自信をもち、共に支え合いながら、生き生きと活動する児童の育成

(1) 進んであいさつができる児童の育成

- ・古里地域学校園と連携しながら「あいさつ運動」を見直し、礼儀正しいあいさつができる児童の育成を図る。
 - ア あいさつ週間の活用（毎月——上手なあいさつのできる児童の紹介）
 - イ 児童会主催によるあいさつ運動（5，1月）
 - ウ 保護者や地域へのあいさつの広がりを目的として、保護者や地域住民の先んじたあいさつへの協力を促す。
 - エ 教職員から率先してあいさつをして行動で示す。（常時）
 - オ 学校のあいさつ運動期間に合わせた家庭における啓発活動「お家もあいさつ運動+α」

(2) ルールやマナーを守り、進んで活動できる児童の育成

- ・学校のきまりの重点項目をまとめた「すてきなにじ色白沢っ子」を継続し、普段の学校教育活動全体と関連付けながら、けじめのあるいきいきとした生活ができる児童の育成を図る。
- ・毎月の振り返りカード（個人・学級）
- ・生活習慣チェックシートを活用し、生活習慣の改善を促す。（前期，後期）
- ・感染症予防のための約束作り（クラスごと・4月）
- ・担当教員（1週間交代）による校内外の見回りと生活当番日誌の活用。

(3) 思いやりの心をもち、互いを尊重し合って行動できる児童の育成

- ・人権教育と連携を図り、自己肯定感を高めることを目的としたカード交換などに取り組ませることにより、認め励ます教育を一層推進する。「ありがとうのふわふわ雲」（カード）の記入，交換，掲示。
- ・児童の悩みや交友関係について相談にのったり，より児童を理解したりする。
 - ア いじめアンケートの実施（5，9，11，2月）と共通理解。
 - イ いじめゼロアンケートと連携した「先生とお話しよう週間」の実施。（6，11月）
 - ウ いじめゼロ標語の掲示
 - エ いじめゼロ集会の実施（10月——いじめゼロの○つの約束の作成・紹介）
 - オ 本校オリジナルのいじめゼロゆるキャラの活用
- ・ブロック会や職員会議時の問題行動・配慮児童の状態の近況報告やいじめ等対策委員会（不登校対策委員会，特別支援委員会を含む）の実施により，共通理解を図り，全校体制による一貫した指導・支援の確立を図る。
- ・欠席状況共有シートを活用し，月末ごとに登校渋り気味の児童の状況を確認する。（児童指導，SCM，特別支援コーディネーター）その後，対応策を考えて支援を行う。（SCにつなぐ，教育相談をする，支援委員会につなぐなど）

8 健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

＜重点目標＞

生涯を通して運動に親しもうとする態度を育成し，体力や健康に関する知識や技能を身に付け，自他の生命を尊重しながら，安全な生活を営む児童の育成

(1) 取組の具体策

- ・元気っ子健康体力チェックを実施し，その結果に基づき，体育の補強運動や体力づくりの時間を活用して，各学年に応じた技能・体力の向上を図る。
- ・保健教育において自分の体位に関心をもたせ，健康の保持増進に努めさせるとともに，定期健康診断を活かしながら，健康の保持増進の方策を知らせる。

- ・児童が心身ともに健康で安全な生活を送ることができるよう、スタンダードダイアリーを有効活用し、学校生活の振り返りや自己の健康・体力・食への関心を深める。
- ・交通安全教室や不審者を想定した避難訓練を関係機関と協力して、定期的に実施する。
- ・「おにぎりの日」や「お弁当の日」を実施し、食育への関心が高まるよう「がんばりカード」や「振り返りカード」を活用したり、食育だよりに献立を載せたりするなど、家庭への啓発を行う。
- ・学校・学年だより、保健だより、食育だよりなどにより、本校の体力向上、望ましい生活習慣への取組についての理解を図り、保護者へ啓発を行う。
- ・不得意な運動種目であっても自分の目標をもち、進んで運動に取り組むことができるように学習カードやICT機器を有効活用したり、スモールステップ型の授業形態を積極的に取り入れたりする。
- ・新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症の予防について正しく理解させ、健康で安全な生活を送れるよう、指導を行っていく。
- ・魅力ある学校づくり地域協議会の方針や活動を中心に学校行事や催し物を充実させ、生涯にわたって運動を行う素地を養う。
- ・業間に体力づくりを定期的に実施し、体を思いきり動かす機会を設け、運動の日常化につなげる。
- ・学校が定めた運動に関する技能の目標が達成できた児童には、賞状を授与したり、集会で表彰したりすることで運動に親しむ態度を育成する。
- ・校内の大会・記録会（ドッジボール大会、水泳大会、長なわ大会、マラソン大会など）を実施し、練習期間を設定することで、運動に対する意欲や運動量の確保へとつなげていく。
- ・短時間で行える「ぷち避難訓練」を実施し、災害に対して、自分で判断し行動できる児童の育成に努める。
- ・古里地域学校園内で情報交換しながら、保健教育・食育の計画・実践に努める。
- ・保健の授業内容を充実させる（体験的な活動・ロールプレイング・学習カードの工夫）とともに、養護教諭とのTTやゲストティーチャーとの連携を図るなど、多様な指導方法を取り入れる。

9 特色ある学校づくり等に関する取組

（１）育てたい資質・能力

- ・「学力の基礎・基本」の確実な定着
- ・「他者を思いやる心」の育成
- ・挑戦したりやり抜いたりする「たくましさ」の育成

（２）具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

◇全学年で通年の朝の学習（プロジェクトS）の推進

◇読書活動の充実（読書ボランティアの活動）

- ・「ありがとうのふわふわ雲」による認め励ます教育の推進
- ・「すてきなにじ色白沢っ子」による月目標の徹底
- ・地域を生かした体験的学習の推進

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協働を含む」）

①基本的考え

- ・郷土愛・思いやり等の醸成のために、地域教材・伝統文化を積極的に活用する。

②主な取組

- ・河内総合運動公園での諸大会開催，企業連携授業，家庭科ボランティア，環境学習，総合的な学習

(2) 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

- ・夢や目標実現のため，よく考え，自ら鍛え，思いやりを磨き，生きる力を豊かにする。

②主な取組

- ・地域学校園合同あいさつ運動，地域学校園食育講座

(3) 不登校対策

①基本的考え

- ・自己肯定感をさらに高めさせ，楽しく居がいのある学校を目指すため，認め励ます教育による居がいのある学級づくりを推進するとともに，各種交流活動によって他者への思いやりと協調性を育成する。

②主な取組

- ・組織的な早期発見・早期対応体制（対策委員会・支援委員会の開催）
- ・「ありがとうのふわふわ雲」，「先生とお話しよう週間」，異学年交流の場の確保

(4) GIGAスクール構想

①基本的考え

- ・報活用能力を育成する教育の充実を図るため，端末を文具の一つとして授業や家庭で日常的に活用できるようにする。

②主な取組

- ・「宇都宮市小学校プログラミング教育年間指導計画」に基づいた，プログラミングの体験
- ・情報活用能力を高める校内研修の充実

(5) 宇都宮学

①基本的考え

- ・郷土への愛情や誇りをもつ気持ちを育むため，地域の教育資源や資料等を活用し，伝統を継承する人の生き方に触れる体験的な活動を多く実施する。

②主な取組

- ・県民の日奉仕作業（全学年）
- ・「白沢ではたらく人にズームイン」（3年）
- ・田植え・稲刈り体験「谷川の不思議を探ろう」「白沢の環境はどうなっているの？」（5年）
- ・「歴史の息づく町：白沢・鎌倉」「未来へ，これからの自分」（6年）

